

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500055		
法人名	(株)福伸		
事業所名	グループホームもたい		
所在地	岩手県奥州市前沢区生母字中道3番地2		
自己評価作成日	平成23年10月20日	評価結果市町村受理日	平成24年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0391500055&SCD=320&PCD=03
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号 岩手県福祉総合相談センター3階
訪問調査日	平成23年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームもたいは、ほのぼのしていて笑顔あふれる事業所です。震災以降、数ヶ月の間に4名の方の出入りがあり、利用者様の暮らし方も変わっております(良い方向へと変わっていると思います)。今までと同様に、職員は個々の持っている力をなるべく失うことのないように手伝わさせていただいており、利用者様も職員も笑顔で明るく過ごすことが出来るよう、日々努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年で5年目になるグループホームもたいは、田畑や自然に囲まれた静かな環境の中、デイサービスセンターが隣接されている。まだ新しい南向きの建物で全館床暖房、居室にはエアコンが完備されており、冬でも足元から暖かく過ごすことが出来る。また、季節感を大切にされており、軒先には干し柿が見られたり、季節の花や共同作品で装飾されている。理念である「目配り、気配り、思いやり」の対応により、利用者様が穏やかに過ごされている。日常の関わりや行動観察により利用者様の生活をよく把握しており、特に排泄の支援においてはチェック表で排泄パターンの把握に努め、排泄の自立に向けた支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『目配り・気配り・思いやり』を念頭に置き、ようやく全職員が、実践していると言える様になってきたと思います。	利用者の行動を観察し思いを汲みとるよう努め、思いやりのある声掛けで対応されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様、積極的な交流とは言えませんが、地域の夏祭りに参加したり、幼稚園や小学校との交流により子供たちとのふれ合いの場が持てるようになっていきます。	近隣の幼稚園、小学校との交流があり、相撲大会を見学しに幼稚園を訪問したり、デイサービスセンターのホールを利用し交流する機会もある。また、地域のお祭り、行事等にも出かけており、定期的に地域との交流が持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所入り口に小さな産直があり、度々一緒に行く事によりどんな人たちが暮らしているのかを知って頂いた。それに伴い認知症についてきかれたり、入るにはどうしたら良いかとか情報等を発信できるようになってきていると思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員で他施設を見学に行ってみてはどうかなどの話が出されていたが、具体的な話し合いもしないまま、震災の影響もあり、いまだ実践に繋がっていない状況である。	震災の影響もあり、昨年度は5回、今年度は2回実施されている。昨年度は委員、利用者、ご家族を交え、忘年会を行う等、交流が持たれている。今年度も計画されており、交流の場を持ち、事業所の状況を理解していただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	頻繁にはではないが、相談載っていただいたりしている。	運営推進会議に市役所職員が参加されている。また、課題解決に向けての相談に応じてもらう等の協力がある。	広報作成を休止しているが、家族や地域、行政との交流、連携を深めるためにも発行を再開し、行政に広報を届けながら事業所の状況を報告し、交流の幅を広げることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中に関しては玄関の施錠はしておらず、散歩したい時など外へ出たい利用者様が居る時には、職員が傍に付き添いいつでも出られる状態にしている。	日中は玄関の施錠は行わず、センサーの使用により出入りの確認ができるようになっている。また、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為についても常に確認できるよう、職員の目に付く所に貼り出している。言葉掛けには特に抑圧感を招かないように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内でサービス向上委員会を設置しそれぞれのグループに分かれ、その中に虐待防止のグループが作られており、その中で色々話し合わせ、社外研修などにも参加し勉強会を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームもたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会には出席した者は居ましたが、それについての詳しい話し合い等は未だ不十分です。まだ勉強の途中です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明をしっかりと行い、家族の不安を解消できるように努めていると思います。今後も継続して行きたいと思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時に話していただけるようにしています。玄関先には意見箱を設置しています。	家族会があり、家族が意見を出せる体制がある。玄関に意見箱を設置しており、意見や要望、言い難いことも受けつけられる体制がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の会議や必要に応じて話し合いの場を設けて、提案している。	毎月の職員会議や、随時行われる職員ミーティングで職員から意見を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し受講内容についての内部での勉強会(伝達研修)を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加して交流できる機会を設けています。未だ十分ではないと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面接時及び来所された都度ご家族の要望を伺い、出来るだけ安心していただけるような支援が出来るように努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面接時及び来所された都度ご家族の要望を伺い、出来るだけ希望に沿った支援が出来るように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者及び家族との話し合いの上で必要なサービス提供に努めていけるように努めています。今後も継続していきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『これで良いのだろうか』といつも考えながら利用者様との係わりを持っていますが、認知症状の進行に伴って出来ない事が増えていきます。出来ない事はサポートしながら寄り添って行きたいと思えます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様のそれぞれの事情により月1回の面会しか出来ない方も居られますが、最低限の係わりだけは絶やさないようにはお願いしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古くからの友人が訪ねてきたり、絵手紙などを送ってくださる方が居たり、自分から手紙を書いたりする方も居りますが、認知症の進行に伴い減る傾向にあります。	友人の訪問があったり、手紙での連絡を取り持つ等、継続的な交流ができるよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや就寝前の談笑時に利用者様同士が助け合ったり笑い合ったりする瞬間が見られます。そんな中からそれなりの絆が生まれていると感じる時があります。利用者様も職員も同じ事で笑い合えるようにして行きたいと思えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設入所以外の退去された家族様からは現在の状況について連絡が入ったりします。良い関係の構築に努めて行きたいと思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の暮らし方や希望を尊重し、その方らしい生活を送る事が出来るように努めています。	認知症の進行により、思いや希望を訴えることが出来ない利用者に対しては、日常生活の中で表情、言葉から、思いを汲み取り意向に沿った暮らしを支援するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全てでは有りませんが把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今現在は一人ひとりの意向に副った暮らし方が出来ていると思います。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の視点での介護計画になるように努力していますが、人によっては出来ていない部分も有ります。職員会議やミニミーティング等で話し合いながら介護にあたっています。	本人の意向を確認し、入居時や、面会の際にご家族に意向を伺い、プランに反映するように介護計画を作成している。モニタリングは職員会議や、ミニミーティング等で必要に応じて話し合いが持たれている。	介護認定更新の時期に合わせて介護計画の見直しを行っているが、定期的なアセスメント、モニタリングを繰り返し、新たな要望や状況の変化が無いようでも、現在よりも短いスパンで介護計画の見直しが行われることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録等については職員が無理なく記録できるような形式を取っています。ミーティング時に活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の家族構成や特別な事情に配慮し対応させていただきます。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームもたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際にはご家族の協力を頂いております。ご家族の支援が受けられない場合及び緊急時にはホーム対応となっております。	基本的には、ご家族の付き添いで受診となっている。ご家族や利用者本人の希望で協力医に変更する場合もあるが、殆どの方はご家族の協力により、かかりつけ医を変更せず、受診が継続されている。受診の際は職員から手紙で普段の様子や変化を伝えるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があった場合には看護師に見てもらい指示に基づき対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に対しての情報提供は詳細にしており、主治医との連携を図る事が出来るように努めて行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	震災以降にお一人対象者(重度化)がおりました。ぎりぎりまでホームで見させていただきましたが、本人の家に帰りたかった想いを考え、家族と相談し最期は自宅で看取る事となり、結果的には良かった様です。ご家族個々に意向が違いますので話し合いながら行っていきたいと考えています。	看取りの指針作成には至っていない。入居開始時に家族、本人への説明はしていないが、必要な状況になった時点でご本人、ご家族の意向を踏まえ事業所が対応しうる支援を十分に説明して理解していただき、出来る限りの対応がされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習会に参加し訓練は行っている。ホームでの急変時に対してはミーティング時に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回行っている。災害時の避難が誰でも出来るように鍛錬できていると思います。本年の震災で感じたことは災害時に備えての必要な物品・備品等についての検討しなければならなかったと感じた。	3/11の震災の際は食品(米等)の備蓄もあり、また、職員の協力により大きなトラブルはなかった。今後の備えとしては懐中電灯の数を増やすことや、飲料水を検討している。地域の消防団から、運営推進委員に入らせていただいております、地域とのつながり、協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様尊重と共にプライドを傷付けることのないよう言葉遣いに配慮し援助を行えるように努めている。	職員は、常に利用者や家族の立場で考えるように指導されており、言葉遣いだけでなく表情、態度にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	殆どの利用者様が自己決定可能ですのであるべく個人の意向に沿って支援が出来るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の自由になっています。自分のペースで生活されておりますが、レク等に関してはこちら側のペースに巻き込んで行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じて美容師さんに来ていただいたりしております。たまには、こんな下着が欲しいとかの希望があったり、更衣時に自分の好きな物が着れるように援助しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食なども含め食事を楽しめる工夫を行っています。利用者様に食事準備や片付けなどを手伝っていただくこともあります(本人の意思尊重)	季節感のある食事が提供されており、職員も一緒に食卓を囲み食事の時間を過ごしている。準備や片付けは利用者の力を引き出すように、さりげなく支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を活用しており水分量は把握できています。 脱水にならないように留意し不足と思われる方には声をかけ飲んでいただくように促しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは欠かさずやっております。磨き残しなどは職員がチェックし再磨きしていただいたりしています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームもたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンの把握に努め尿意の訴えなくともトイレを促し、なるべくトイレでの排泄が出来るような援助をしています。それにより、リハビリパンツからショーツに変わられた方もおります。	尿意の訴えが出来ない利用者に対しても、24時間、排泄チェック表を使用し排泄についての記録がされており、一人ひとりの排泄パターンに合わせたトイレ誘導が行われている。それにより、排泄の自立度も向上している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性便秘の方の周期把握に努めなるべく自然に近い状態で排便が出来るように運動を促したり食事水分量に気をつけるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴になっています。朝から楽しみにしている方もあり入浴用の着替えなど自分で準備してくれている方もあります。	基本的には午後の時間に入浴していただいている。入浴が好きな方、そうではない方もおり、個々に合わせた対応により清潔に過ごすことが出来るように支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床も就寝も本人の思いのままにしております。午前・午後のお茶時以外は休息を取れるようになっておりますが、昼夜逆転にならないように留意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は一人ひとりに確実にいき、薬情は常に見えるところにあり、内服薬が変わった時などは特に変わった事がないか観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクを中心にその時々で楽しんで頂ける様な工夫をしています。自分の気持が言える様な環境づくりに心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望で外出に付き添ったり、買い物と一緒に出かけたりしている。ドライブを計画し季節感を味わって頂くようにしている。地域やご家族と共に外出は今後の課題だと思っている	近所の商店や郵便局に用足しに出かけたり、事業所周辺の散歩は日常的に行われている。食材買出しに同行して自分の食べたいものを買う方もいる。歩けない利用者のためにドライブを企画して出かけている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームもたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は本人はしておりません。ホームで預かり管理しています。出納帳に記入し家族に確認して頂いています。本人の希望する物を購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書き自分の手で投函したいと職員の付き添いで出しに行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼夜の気温の確認を行い、窓を開放し外気を取り込んだり出来るだけ過ごし易い環境を整えるように努めています。 また、花を飾ったり、絵(職員の手描き)を貼ったりすることで季節を感じてもらおうようにしています。	玄関、廊下、居間等全体的に広い作りであり、車椅子を使用する際も余裕がある。食堂は南向きで大きな窓から光が差し込む。隣接し畳スペースやウッドデッキもあり、ソファや食卓テーブルでくつろぐ事ができる。季節の花や利用者と職員の共同作品等で装飾されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	要所要所にソファを置き自由に腰掛けられるようにしており、そこでは一人で外を眺めたり、横になったり、他利用者と談笑されたり自由に過ごしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やベッドに使い慣れた馴染みの物を置いたりしている方も居ります。またご自身やご家族の写真を貼ったりしております。	各居室にはエアコンが完備されている。全館床暖房で冬は足元から暖かく過ごすことができる。入居時には馴染みの家具等を持ち込み、居心地良く過ごせるよう声をかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには貼紙や目印になる物を貼っておりますし、テーブル席には名前を貼っていますので安心して座られています。 また、廊下等には極力障害物を置かないように配慮しています。		